

平成30年度 奈良県立五條高等学校（全日制課程）学校評価総括表

<p>学校経営方針</p>	<p>「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、常に高い志をもって行動できる生徒の育成に重点を置いて、そのために、生徒各自の「夢」「希望」そして「挑戦」をキーワードとして、生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。その取組を通して、中学生にとって「行きたい」、保護者にとって「行かせたい」、在校生や卒業生にとって「来てよかった」と思える魅力ある学校づくりに努める。</p>				<p>総合評価</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>これまで、生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組を積極的に実践することによって、①『学校の魅力づくり』と②『入学希望生徒の確保』を学校経営の主眼点とし、学校の活性化に取り組んできたが、地元五條市域等の少子化の進行で今後の不安定要素がさらに大きくなっている。 導入から10年を経過したスクールバスの運行をはじめ、スクールカウンセラー・教育相談スーパーバイザーの単独配置による教育相談体制の構築、学校運営協議会の設置によるコミュニティ・スクールの取組、グラウンド人工芝生化による施設・設備の充実等、10年後を視野に入れた新しい学校改革にむけて、積極的な取組を進めてきたが、今後とも、現状の課題を整理しながら、生徒・保護者の期待に応えるべく、学力の向上を図るなど更なる改善・充実を図る必要がある。</p>				<p>B</p>
<p>本年度の重点目標</p> <p>具体的目標 ○主な具体的方策（担当）</p>	<p>評価の指標等</p>	<p>自己評価</p>	<p>成果と課題</p>	<p>改善方策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>1 魅力ある進路実現 進学指導をはじめ、魅力ある進路実現への対応</p>					
<p>①わかる授業の実現（授業力の向上） ○ 学習活動の工夫を図る。（教務部）</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。（教務部）</p> <p>○ 読書活動の活性化を図る。（文化図書部）</p> <p>③進路保障にかかわる取組の充実 ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。（進路指導部） ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。（進路指導部） ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って学習に取り組ませる。（進路指導部）</p>	<p>・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」 30年度<目標:75%以上></p> <p>・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 30年度<目標:70%以上></p> <p>・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 30年度<目標:80%以上></p> <p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。 30年度<目標:70%以上></p> <p>・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 30年度<目標:75%以上></p> <p>・「読書の時間」を(月)と(木)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、すべての曜日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取り組みを進める。</p> <p>・集会、説明会等の実施総数 10回。 ・上記実施状況について、HPにて情報発信を行う。 総数 10回。</p> <p>・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 30年度<目標:90%以上></p> <p>・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 30年度<目標:85.0%></p> <p>・各学年進路講習の企画立案 総数5回</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が 66.7%、「内容がよく理解できそうである」が 63.3%、保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」83.7%で、2項目が目標にわずかに届かなかったが、1項目は目標を達成した。</p> <p>・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、さらなる授業改善を含めた工夫が必要である。</p> <p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が 71.4%、教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が84.6%で、2項目とも目標を達成した。</p> <p>・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開の他、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。</p> <p>・「読書の時間」は当初の計画通り実施できた。生徒の読書への取り組みには不十分な点もあったが、「読書HR」用の朗読CDや集団読書テキストの利用は活発であった。</p> <p>・各学年進路ガイダンスをはじめ、学年全体や希望者対象の説明会を計画的に行い、計15回開催した。ただ、情報発信については、6回にとどまり、開催後の生徒の感想等の周知が十分でなかった。</p> <p>・「進路実現ができた」生徒は90.1%。</p> <p>・「丁寧な進路指導」は77.9%(保護者アンケートは84.4%)で前年並みであった。進路実現のための確かな学力の育成と相談体制の確立が課題となる。</p> <p>・進路講習は、各教科の協力をいただきながら計画通り実施した。出席状況において、部活動との兼ね合いが課題となった。</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、さらに授業改善に取り組む。</p> <p>・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。</p> <p>・研究授業、他教科の授業参観については、主体的、対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。</p> <p>・授業改善に向けた取組がさらに活発になるよう、これまでの本校の取組を継続する。</p> <p>・生徒によるPOPカード作りを引き続き実施すると共に、教員による推薦図書紹介も充実する。</p> <p>・「夢の扉」を活用して体系的、計画的な進路指導体制を意識するとともに、担任と進路部の連携を密にする。また、常に情報発信を意識し、分掌内に担当者を置いて周知を図る。</p> <p>・進路実現に不可欠である確かな学力育成のために、各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。</p> <p>・進路講習は生徒の希望や授業の一部として実施されるので、公式戦等以外は極力進路講習を優先していただけるよう理解を求めます。</p>	<p>インターネットで様々な情報が簡単に入ってくる時代となり、価値観も変わってきている。高校生に目標を持たせるのは難しい。将来のことを認識させる指導を充実してほしい。</p> <p>アンケートで「進路実現ができた」が90%であるが、自分の希望するところへ行けたのか、現状把握と内実を高めていく取組が必要である。</p>
<p>2 充実した学校生活 学校行事の充実と部活動の活性化</p>					
<p>①学校行事の精選と内容の充実 ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。（保健体育部）</p> <p>○ 文化行事の充実を図る。（文化図書部）</p>	<p>・各体育行事の目標参加率 30年度<目標:95%以上></p> <p>・文化祭2日間の欠席者数 30年度<目標:10人以内></p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・本年度は天候の関係で球技大会を実施することができなかった。3年生のみの球技大会を実施したが、当日も雨で体育館、卓球場を使用しての大会になった。</p> <p>・体育行事の参加率は高く95%以上を達成した。</p> <p>・文化祭の欠席は2日間で延べ25人であった。文化祭前々日に警報が出て準備等が懸念されたが、展示や演技部門で趣向を凝らした作品が多く見られた。</p>	<p>・雨であっても実施しやすい種目を検討した方が良いのではないかとと思われる。ある程度順延できる日程的余裕も必要であると考えます。</p> <p>・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がさらに積極的に参加できるようにする。なお、文化祭の運営につ</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ○ 異文化理解を推進する。 <p>②部活動加入率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。(生徒指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保を図る。 <u>30年度〈目標〉12名</u> ・ガートン校よりの短期研修生のホームステイ受け入れ家庭を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心が持てる内容である」 <u>30年度〈目標:80%〉</u> ・部活動加入率 <u>30年度〈目標:80%〉</u> 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は7名の参加となり、目標人数を下回ったが、事前研修には十分時間を取っている。 ・3名の短期研修生が来校し3家庭にホームステイを受け入れてもらったが、受け入れ家庭の確保が難しくなっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動に関するアンケート結果は、56.3%と昨年度の72.0%から大幅に下降している。 ・部活動加入率は、75.3%と昨年度の75.9%、一昨年度75.6%とここ3年間は横ばいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いて、生徒指導部生徒会係との連携を密にする ・短期研修や交流会の成果を機会あるごとに発信する。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、さらに生徒や保護者に働きかける。 ・短期研修生のホームステイ受け入れ家庭の確保に努める。 ・全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。 ・今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。 	
<p>3 安心して通える(通わせる)ことができる学校づくりの充実</p>		<p>きめ細やかな生徒への対応と生徒指導の充実</p>			
<p>①日頃から生徒及び保護者との関わりを大切にす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の人権意識を高める。(人権教育部) <p>②共通理解、同一歩調、全校体制で指導にあたる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談体制を確立する。(生徒指導部) <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の人権意識の資質向上を図る。(人権教育部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を年10回発行する。 ・問題を抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組を行う。 ・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 <u>30年度〈目標:80%〉</u> ・年1～2回外部から招聘した講師による研修会を開く。 ・研究大会、学習会に積極的に参加する。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 ・各分掌が作成し、多くの先生が携わった。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果が、昨年度69.5%から今年度62.2%と下降した。家庭環境や生徒をとりまく環境の複雑化によって多様な問題と悩みを抱える生徒が増えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は人権教育部主催の研修会は実施できなかったが、3年生の公開HRのため講師を招聘した。 ・各種研究大会及び研修会に積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの返信がほとんど無く、文書が保護者により多く届くよう工夫する。 ・引き続き、生徒と粘り強くかわり、話を聞くということを継続していくとともに、カウンセラーや保護者との協力を密にしていきたい。 ・多様性に応じた一人一人を大切にする取組を継続する。 ・先生方の自主的な研修への参加を促す。 	<p>保護者アンケートの回収率が50%と悪かったが、そのあたりを十分検証する必要がある。</p>
<p>4 外部との連携・情報発信の強化</p>					
<p>①地域と共にある学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との連携を深める。(広報企画部) <p>②人工芝グラウンド活用による諸活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校、地域への開放をすすめ、人工芝グラウンド活用するイベントを開催する。 <p>③HP等による効果的な広報活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。(広報企画部) ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力情報を発信する。(広報企画部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者を集める。 <u>30年度〈目標:120名〉</u> ・施設開放や小中学生を対象としたスポーツ交流・イベントの開催 ・年間更新回数を増やし、情報をタイムリーに発信する。 <u>30年度〈目標:120回〉</u> ・オープンキャンパスで、これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者を集める。 <u>30年度〈目標:360名〉</u> 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」の参加者(中学生)はのべ169名、コットンプロジェクトの参加者(小学生)はのべ85名(1/31現在)。 ・市内小学生対象サッカーフェスティバルの開催や主に南部の中学校とのサッカー合同練習会の実施、市内小学校の遠足での利用等、有効活用を図っている。 ・1月末現在で更新回数130回以上となっており、学校行事その他の情報をこまめに発信した。 ・保護者アンケートにおいて、本校Webページを「よく見ている」「ときどき見ている」と答えた保護者は43%であった。 ・本年度参加者は生徒・保護者合わせて269名であった。参加者アンケートの結果は概ね好評であった。中学校からの要請もあり、1学期終業式までに中学校訪問を終えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が少ない教室への参加を呼びかける。 ・小学生対象のグラウンド等本校施設を活用した体験活動に関する取組を拡充する。 ・各分掌でWebページ担当を決めてもらい、情報収集と提供をお願いする。 ・合格者説明会や入学式等でWebページに興味をもってもらうように呼びかける。 ・中学生に向けての案内や当日の内容を魅力あるものにする、 	<p>学校施設について、アンケート結果で90%以上の肯定的に捉えられている。この施設を利用した、サッカー教室やプロのバスケットボールチームを招いての教室といった事業が、地域に開かれた学校として、また高校生の力を引き出す取組として、ありがたく思っている。</p> <p>伝統校であっても少子化の波にはあらがえない。これをどう乗り越えていくか、できることを考えなければならない。アンケート結果では見ている生徒が少ないが、外部向けにはWebページが有効である。</p>
<p>5 学校改善のための組織的取組</p>					
<p>①コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の取組による学校改革と諸活動の最適化</p> <p>②個々の生徒の強みを生かした進路実現における方策の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。(進路指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校の連携・協働の推進 ・地域の事業所でのインターンシップ体験による適切な進路選択 ・地域の方と共に行う教育活動 ・研修会については、全体・学年ごとに合わせて総数5回。 ・進路の情報提供に関する配布物、回覧については、総数10回 	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会全体会2回、全日制部会2回開催 ・地域の行事に、多くの生徒が有志・生徒会役員・クラブ員として参加した。 ・校内職員研修は、全体に2回、各学年や若手教員を対象に6回、計8回実施した。配布物や回覧については進路情報誌等12回、校外での研修会の案内等を28回おこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの取組を推進する分掌を設置。今後とも、学校・家庭・地域が一体となった協働関係の構築を図る。 ・進路指導の全体目標とともに、各場面に応じたタイムリーなテーマ設定と研修日の早期設定が必要である。 ・外部研修の情報提供を継続的に行い、参加を働きかける。 	

各分掌等の評価

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	1-③/2-① ○ 異文化理解を推進する。	・オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。	・本校よりの短期研修において、安定した参加人数の確保を図る。 <u>30年度〈目標〉 12名</u> ・ガートン校よりの短期研修生のホームステイ受け入れ家庭を確保する。	B	A	・本年度は7名の参加となり、目標人数を下回ったが、事前研修には十分時間を取っている。 ・3名の短期研修生が来校し3家庭にホームステイを受け入れてもらったが、受け入れ家庭の確保が難しくなっている。	・短期研修や交流会の成果を機会あるごとに発信する。 ・長年培ってきた姉妹校関係を今後も継続し国際交流を推進するために、さらに生徒や保護者に働きかける。 ・短期研修生のホームステイ受け入れ家庭の確保に努める。	
	4 ○ 育友会・同窓会との連携を強化する。	・育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会の諸行事の活性化を図る。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・保護者アンケート「五條高校では、育友会活動が熱心に行われている」 <u>30年度〈目標〉 70%以上</u>	A		・育友会役員会を4回、企画委員会を3回開催して意見交流を図り、良好な協力・支援関係を構築できた。 ・同窓会総会・理事会等に参加して学校との関係を密にし、有効な支援をいただくことができた。 ・アンケート結果は85%と、概ね熱心に行われているとの評価であった。	・各方面とさらに連携して推進する。 ・分掌内の育友会・同窓会の担当者を複数にして、業務推進の強化に努める。	
	1-③ ○ 奨学金受け付け事務を円滑に実施する。	・生徒に各種奨学金の案内を行い、受け付け事務を円滑に進める。	・3年進学希望生徒に対して、日本学生支援機構奨学金及び各種奨学金の説明会を年3回実施する。	A		・3回以上の説明会を行い、日本学生支援機構奨学金については、157名の予約手続きを行った。 ・個別指導が必要な上、重要な個人情報を取り扱うための設備もなく、物心ともに担当者の負担が大きい。	・今後もきめ細かい受け付け事務を実施する。 ・日本学生支援機構予約奨学金の申請手続きは、生徒の家庭と機構との直接手続きとなるよう、機構に要望していきたい。	
教務部	1-① ○ 学習活動の工夫を図る。	・生徒の基礎学力の向上を図る。 ・生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。	・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」 <u>30年度〈目標〉:75%以上</u>	B	B	・生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が66.7%、「内容がよく理解できそうである」が63.3%。(1学期末) ・保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」83.7%。(2学期末) ・2項目が目標にわずかに届かなかったが、1項目は目標を達成した。 ・一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、ますます多様化する生徒に対して、さらなる授業改善を含めた工夫が必要である。	・生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、さらに授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、Webページ等を通じて保護者に周知する。	
			・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 <u>30年度〈目標〉:70%以上</u>	B				
			・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 <u>30年度〈目標〉:80%以上</u>	A				
	1-② ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。	・各教科の研究授業を1回以上行い、2教科で指導主事を招いて実施する。 ・指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。 ・他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実に実行。	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。 <u>30年度〈目標〉:70%以上</u> ・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 <u>30年度〈目標〉:75%以上</u>	A	A	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が71.4%。 ・教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が84.6%。 ・2項目とも目標を達成した。 ・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開の他、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。	・研究授業、他教科の授業参観については、主体的、対話的で深い学び(いわゆるアクティブラーニング)や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組がさらに活発になるよう、これまでの本校の取組を継続する。	
1-③ ○ 基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間を守ること等、基本的な生活習慣を確立させる。	・年間欠席総数 <u>29年度 2,886回→30年度〈目標〉:2,300回</u> ・年間遅刻総数 <u>29年度 910回 → 30年度〈目標〉:800回</u>	C		・1月17日時点で、欠席総数2839回と目標をすでに上まわってしまっている。 ・1月末時点で遅刻総数は893回と目標達成ならなかった。 ・携帯電話のマナー違反、SNS絡みのトラブルが増加している。 ・アルバイトを希望する生徒が、増加していく傾向がある。	・不登校生徒が多く、今後個人面談やカウンセラーの活用を含む教育相談の取組、居場所のあるクラス作りをさらに充実させ安心して登校できる環境作りを目指す。 ・来年度の校時変更に伴い、時間厳守、時間管理の重要性を訴え、数を減らしたい。 ・大きい声で元気に挨拶する生徒を増やす取り組みを、生徒会を活用して行っていきたい。 ・アルバイトに対する全体のスタンスを教員全体で確認する必要がある。	アンケート結果で90%以上の肯定的に捉えられていることの一つが、挨拶であるが、五條高校へ行けば気持ちよい挨拶をしてもらえる市内小中学生の模範となっている。	

	<p>1- ② / 2- ② / 3- ②</p> <p>○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。 部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。 各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心が持てる内容である」 29年度 72.0% → 30年度<目標:80%> 部活動加入率 29年度 75.9% → 30年度<目標:80%> 部員集会やキャプテン会議を学期に1回以上開催する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動に関するアンケート結果は、56.3%と昨年度の72.0%から大幅に下降している。 部活動加入率は、75.3%と昨年度の75.9%、一昨年度75.6%とここ3年間は横ばいである。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。 今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。 	
	<p>3- ①、②</p> <p>○ 教育相談体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制を整備して、支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題を持つ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図りながらカウンセリングを受ける機会を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組を行う。 当該生徒対象にケース会議を考査期間中に開き、対応を検討する。 生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 29年度 69.5% → 30年度<目標:80%> 	B		<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果が、昨年度69.5%から今年度62.2%と下降した。家庭環境や生徒をとりまく環境の複雑化によって多様な問題と悩みを抱える生徒が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生徒と粘り強くかわり、話を聞くということを継続していくとともに、カウンセラーや保護者との協力を密にしていきたい。 次年度より、スクールカウンセラーの提案で、1年生にはストレスマネジメント関連の取り組みを拡充したい。 	
進路指導部	<p>1- ③ / 4- ③</p> <p>○ 計画的・系統的な進路指導を行う。</p> <p>○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、進路について広く深く考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会、説明会等の実施総数 10回。 上記実施状況について、HPにて情報発信を行う。 総数 10回。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 各学年進路ガイダンスをはじめ、学年全体や希望者対象の説明会を計画的に行い、計15回開催した。ただ、情報発信については、6回にとどまり、開催後の生徒の感想等の周知が十分できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「夢の扉」を活用して体系的、計画的な進路指導体制を意識するとともに、担任と進路部の連携を密にする。また、常に情報発信を意識し、分掌内に担当者を置いて周知を図る。 	インターネットで様々な情報が簡単に入ってくる時代となり、価値観も変わってきている。高校生に目標を持たせるのは難しい。将来のことを認識させる指導を充実してほしい。
	<p>1- ③ / 5- ②</p> <p>○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って学習に取り組ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 29年度(進路決定者の内)87.6% → 30年度<目標:90%以上> 生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 29年度 82.2% → 30年度<目標:85.0%> 各学年進路講習の企画立案 総数5回。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「進路実現ができた」生徒は90.1%。 「丁寧な進路指導」は77.9%(保護者アンケートは84.4%)で前年並みであった。進路実現のための確かな学力の育成と相談体制の確立が課題となる。 進路講習は、各教科の協力をいただきながら計画通り実施した。出席状況において、部活動との兼ね合いが課題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に不可欠である確かな学力育成のために、各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。 進路講習は生徒の希望や授業の一部として実施されるので、公式戦等以外は極力進路講習を優先していただけるよう理解を求める。 	アンケートで「進路実現ができた」が90%であるが、自分の希望するところへ行けたのか、現状把握と内実を高めていく取組が必要である。
	<p>1- ③ / 5- ②</p> <p>○ 進路指導に関する情報収集と情報提供を行い、教員の指導力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導にかかわる職員研修の機会を適宜持つ。 進路指導に関する情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会については、全体・学年ごとに合わせて総数5回。 情報提供の配布物、回覧については、総数10回。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 校内職員研修は、全体に2回、各学年や若手教員を対象に6回、計8回実施した。配布物や回覧については進路情報誌等12回、校外での研修会の案内等を28回おこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の全体目標とともに、各場面に応じたタイムリーなテーマ設定と研修日の早期設定が必要である。 外部研修の情報提供を継続的にを行い、参加を働きかける。 	
人権教育部	<p>3- ②</p> <p>○ 職員の人権意識の資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進に関する職員研修会を実施する。 各学年に研修会等への参加を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1～2回外部から招聘した講師による研修会を開く。 研究大会、学習会に積極的に参加する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 今年度は人権教育部主催の研修会は実施できなかったが、3年生の公開HRのため講師を招聘した。 各種研究大会及び研修会に積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性に応じた一人一人を大切に取る取組を継続する。 先生方の自主的な研修への参加を促す。 	
	<p>1- ②</p> <p>○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、人間としての在り方生き方を大切にする生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公開HRに向けて、生徒の実態に合わせて、HR毎に指導内容を工夫する。 道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開HRに応じた人権教育年間計画を作成する。 生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、人権問題について考える機会が多い」 29年度 92.0% → 30年度<目標:93%> 道徳教育全体計画に基づき実施し、成果を検証する。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に公開HRを実施し、各学年で2クラスずつ発表した。 生徒アンケート「人権問題について考える機会が多い」が、昨年度92.0%から今年度90.2%に少し減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権HRの指導案を各クラスで作成し、生徒の実態に合わせて修正を加える。 人権教育HRを年間指導計画に基づき、計画のとおり実施する。 	
	<p>3- ②</p> <p>○ 生徒の人権意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を年10回発行する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 各分掌が作成し、多くの先生が携わった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの返信がほとんど無く、文書が保護者により多く届くよう工夫する。 	
	<p>1- ② / 4- ①</p> <p>○ 人権系の力量を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全学年のホームルームから人権係を2名ずつ選出、人権意識向上の活動を行う。 人権系の生徒対象に人権に 	<ul style="list-style-type: none"> 「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒向けにその趣旨を放送によりアピールする。 ボランティア活動に積極的に参加する。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 人権係は啓発文書の配布日に放送アピールを行った。 人権係の手話講習会を年2回実施した。 人権映画会で人権係による進行ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が作成した啓発文章を配付できるよう工夫する。 人権系の活動が学校全体への活動へと広げられるよう生徒会等と連 	

		かかわる講習会を開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・手話講習会を実施し、クラスで人権教育の中心として活動できる力量を育てる。 ・人権映画会の司会を人権係が担当する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・解放研の活動が低調であった。 	携する。 <ul style="list-style-type: none"> ・解放研活動が継続できるように指導を重ねる。 		
文化図書部	2-① ○文化行事の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭2日間の欠席者数を生徒総数の1%未満にする。 29年度 延べ24人 → 30年度 <目標:10人以内> ・カルタ大会・おはなし会を実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭は、3部門での発表を盛大に開催できた。欠席は2日間で延べ25人であった。文化祭前々日に警報が出て準備等が懸念されたが、展示や演技部門で趣向を凝らした作品が多く見られた。 ・カルタ大会やおはなしの会も盛況だった。カルタ大会はクラス代表・文化委員・放送部員によって運営され、生徒が主体的に活動できるものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がさらに積極的に参加できるようにする。なお、文化祭の運営について、生徒指導部生徒会係との連携を密にする。 ・両会の実施方法について再検討し、生徒にとって意義深いものになるように工夫する。 	
	1-②/4-① ○図書館利用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館報・図書館だよりを発行し、図書館利用を促進する。 ・五條市立図書館との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者の増加を図る。 29年度 延べ9,849人 → 30年度 <目標:10,000人> ・貸出冊数の増加を図る。 29年度 1,561冊 → 30年度 <目標:1,600冊> ・五條市立図書館との合同企画を実施する。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者は1月31日現在で延べ9029人で前年同時期より下回ったが、貸出冊数は1598冊で前年同時期より上回った。『図書館報』『図書館だより』の発行も順調であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加を図るため、今後も生徒の図書リクエストに応えるとともに、授業や部活動での図書館利用を促す。 	
	1-② ○読書活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の時間」を(月)と(木)のSHRに7分設定し、考査後1週間は、すべての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取り組みを進める。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の時間」は当初の計画通り実施できた。生徒の読書への取り組みには不十分な点もあったが、「読書HR」用の朗読CDや集団読書テキストの利用は活発であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるPOPカード作りを引き続き実施すると共に、教員による推薦図書紹介も充実する。 	
保健体育部	2-① ○体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上、(脚力、忍耐力を鍛える)を図るとともに生徒を主体とした体育活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会、体育大会。耐寒登山を実施する。 ・各行事の目標参加率を95%以上とする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は天候の関係で球技大会を実施することができなかった。3年生のみの球技大会を実施したが、当日も雨で体育館、卓球場を使用しての大会になった。 ・体育行事の参加率は高く95%以上を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨であっても実施しやすい種目を検討した方が良いのではないかと思われる。ある程度順延できる日程的余裕も必要であると考え。 	
	○体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育活動を通じて人と連なるコミュニケーション能力を培う。 ・体育の授業だけでなく自らの生活の中で体力向上をめざす運動習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年とも前年度を上回ること。(8項目中5項目以上数値アップを目指す) 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの結果、2、3年男子は目標を達成したが、女子は目標を達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に男子がバランスよくレベルアップし、女子が低下するのは運動部への参加比率も影響しているように思われる。日常的な運動機会を増やすことが必要と思われる。 	
環境美化部	○校内美化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃活動により校内美化を推進する。 ・大掃除を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」 29年度 53.0% → 30年度<目標:55.0%> 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・30分間の大掃除を3回行うことができた。 ・保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」(目標55.0%)「そう思う44.2%」「どちらかといえばそう思う49.6%」で「そう思う」が目標に届かなかった。 ・清掃用具調を予定通り4月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も始業式の日と定期考査後の質問日に、大掃除の時間を30分程度とるようにする。 	
	○美化委員会活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・当番制で花の水やり活動を進める。 ・通学路美化活動を実施する。 ・花の植え替えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花の水やり活動を毎日実施する。 ・通学路美化活動を学期に1回実施する。 ・花の植え替えを年2回する。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・花の水やりは、予定通り実施できた。 ・通学路美化活動は、1学期は雨天のため実施できなかった。2・3学期は予定通り実施した。 ・花の植え替えは予定通り年2回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も、花の水やり、通学路美化活動、花の植え替えを実施したい。 	
	○防災教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震等を想定した避難訓練を5月に実施する。 ・職員研修を行う。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、5月に実施した。HRで防災・防火に関する資料を配付し、防災意識の育成を図った。 ・7月に奈良シェイクアウトを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の有無に関わらず、防災・防火のHRを行いたい。 	
広報企画部	4-③ ○学校ホームページや掲示板等を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間更新回数を増やし、情報をタイムリーに発信する。 29年度 100回 → 30年度<目標:120回> 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・1月末現在で更新回数130回以上となっており、学校行事その他の情報をこまめに発信した。 ・保護者アンケートにおいて、本校Webページを「よく見ている」「ときどき見ている」と答えた保護者は43%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌でWebページ担当者を決め、情報収集と提供をお願いする。 ・合格者説明会や入学式等でWebページに興味をもってもらうように呼びかける。 	伝統校であっても少子化の波にはあらがえない。これをどう乗り越えていくか、できることを考えなければならない。アンケート結果では見ている生徒が少ないが、外部向けにはWebページが有効である。
	4-③ ○中学生やその保護者を対象	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介パンフレット等の作成と発送を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『学校紹介』(4,000部)を改訂し、より魅力的なものとする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・プロのデザイナーに依頼し、学校案内を刷新した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の魅力を伝える写真データを多く作成・保存する。 	

	に五條高校の魅力を情報発信する。	・オープンキャンパスを開催する。	・これまで以上に中学校や保護者へ情報発信し、より多くの参加者を集める。 29年度 340名 → 30年度<目標:360名>	B	A	・本年度参加者は生徒・保護者合わせて269名であった。参加者アンケートの結果は概ね好評であった。中学校からの要請もあり、1学期終業式までに中学校訪問を終えた。	・中学生に向けての案内や当日の内容を魅力あるものにする、	学校施設について、アンケート結果で90%以上の肯定的に捉えられている。この施設を利用した、サッカー教室やプロのバスケットボールチームを招いての教室といった事業が、地域に開かれた学校として、また高校生の力を引き出す取り組みとして、ありがたく思っている。
	4-① ○ 地域との連携を深める。	・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」「コットンプロジェクト」等を実施する。 ・地域の行事に参加・貢献する。	・近隣小中学校への案内を充実させ、より多くの参加者を集める。 29年度 100名 → 30年度<目標:120名> ・校内で生徒のボランティアを募り、より多くの生徒を参加させる。	A		・「五高スポーツ教室」「五高カルチャー講座」の参加者（中学生）はのべ169名、コットンプロジェクトの参加者（小学生）はのべ85名(1/31現在)。 ・地域の行事に、多くの生徒が有志・生徒会役員・クラブ員として参加した。	・参加者が少ない教室への参加を呼びかける。 ・有志の参加が少ないため、校内でボランティア登録を行い、参加状況を記録する。	
第1学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚を持たせ、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・遅刻の各クラス別年間総数の平均が15回未満、欠席が100回未満とする。	A		・1学期は欠席・遅刻共に少なかったが、2学期後半に入り特定の生徒に多くなってきた。3学期は登校していない生徒も増加してきている。	・担当の先生だけでなく、関係する先生のコミュニケーションを大切にすると共に、専門家の指導・助言を仰ぐ。	
	○ 部活動（課外活動）に参加させる。 ○ 基礎学力を充実させる。	・学習と部活動の両立を目指し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。 ・授業を最大限に活用し、予習・復習を毎日の習慣とさせて、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	・部活動の加入率が80%以上とする。 ・平日に家庭学習を毎日する生徒の割合が70%以上。	B	B	・部活動加入率は1学期は80%以上だったが、3学期になり74%になった。 ・家庭学習については、目標を大きく下回り、家庭学習が生活習慣にできていない。定期考査での欠点保持者数が1学期よりも大幅に増加している。	・部活動顧問と担任が連携し、活動している生徒や辞めた生徒の現在状況を確認し合う。 ・定期考査前だけでなく、計画を立てた日々の学習について指導する時間を確保する。	
	○ 進路目標を明確化させる。	・自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	・LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が、80%以上とする。	B		・進路目標を持っている生徒は、1学期は少なかったが、徐々に目標を持つ生徒が増加してきている。	・ホームルームやガイダンス等に、より考える機会が多くなった。具体的な目標を考え行動を導く必要がある。	
第2学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・中堅学年としての自覚を持たせ、遅刻や欠席をしないで授業に集中して取り組む姿勢を養う。 ・挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。	・遅刻の各クラス別年間総数の平均が25回未満、欠席が85回未満とする。	B		・2学期末時点での欠席総数は936回、月平均117回、クラス平均133回である。遅刻については、総数 272回、月平均34回、クラス平均38回となってしまった。不登校傾向の生徒が出てきて、長期にわたって欠席する生徒の数も多くなった。 ・挨拶についても、する生徒と全くできていない生徒にはっきり分かれている。	・指導が必要な生徒については、カウンセリングなどを利用しながら、学年全体で課題を共有し、日常的に声かけをするなどして取り組む。	
	○ 自主学習の定着を図る。	・課題の提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主学習を習慣付ける。	・平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合が70%以上。	B	B	・家庭学習については、定着しているとは言いがたい。習慣となっている生徒の数も増えてきているが、日々の課題、小テストの不合格課題等の提出もできていない生徒が多い。	・提出物、課題の内容を厳選し、必ず全員が提出できるようにする。 ・来年度の進路実現に向けて、日々の学習の大切さを様々な機会を捉えて生徒に喚起していく。	
	○ 具体的な進路目標を設定させる。	・あらゆる場面を通じて、主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的進路目標を設定させる。	・第2学年の間に、自分の志望校、志望職種が決定できた生徒の割合が80%以上。	B		・志望校をすでに決定できている生徒の数は増えてきているが、まだ何も考えていないという生徒もかなりいるように思われる。	・ガイダンスやHRなどを通して、継続的な指導が必要である。また、次年度に向けて、大学等のオープンキャンパスなどにも積極的に参加するように促していく。	
第3学年	○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した毎日を過ごさせる。	・最高学年としての自覚と責任を持ち、時と場に応じた言動ができる。 ・クラス別年間遅刻総数の平均が25回未満、欠席総数の平均が100回未満とする。	C		・挨拶、言葉遣いなどに自覚を持つ生徒が多いが、不十分な者もいる。 ・クラスあたりの遅刻総数の平均は55回、欠席総数の平均は156回。 欠席は昨年度の3年の40%増である。心身の不調により、欠席、遅刻の多い生徒が相当数いる。	・教員の指導を受け入れ、努力しようとする生徒が多いが、再三にわたり指導を要する生徒も複数いる。 ・指導を要する生徒について、教員全体で課題を共有し、教育相談等にも取り組む必要がある。	
	○ 自主学習の定着を図る。	・卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。	・平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合が85%以上。	B	B	・平日に全く家庭学習をしない生徒は、7月の生徒アンケートで、22.9%、12月の調査で30.3%。昨年度の3年より高い。一方、熱心に学習に取り組む生徒もいる。	・生徒の生活を把握し、個々的に確かな指導を行う必要がある。	
	○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	・具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向け	・就職、進学の決定率が95%以上。 ・「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導			・今後、受験する生徒を除き進路未決定のまま卒業する生徒はいない。	・あらゆる機会を通じて、本校の学力向上や進路指導の取り組みをき	

	て効果的、能動的に取り組ませる。 ・一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。	が行われている」生徒アンケート・保護者アンケート第3学年が85%以上。	A	・12月の生徒アンケートと保護者アンケートの結果、生徒77.2%、保護者91.0%。昨年度の3年と比べて生徒は変わらないが保護者は大きく上がった。	ちんと理解してもらえるよう個々の生徒・保護者に周知する。今年度は保護者との連携が功奏したと思われる。
--	---	-------------------------------------	---	---	--